

# 長崎自然共生フォーラム News Letter

新春号（第8号） 2010年1月1日 発行

論説に代えて —

## 持続可能な社会の構築にむけて ～'09 長崎自然共生シンポから

事務局 川里弘孝

去る7月11日（土）13時30分から、長崎ブリックホール（3階会議室）において、当フォーラムの発足20周年を記念して、シンポジウムが開かれました。当日は、長崎県から中村環境部長をゲストスピーカー・パネリストとしてお迎えし、本会の宮原、早瀬両先生と山本副会長、それに若手女性お二方を加え、時間一杯、活発な議論が展開されました。60名近くの参加者があり、会場は熱気にあふれました。

まず、総合コーディネーターをつとめる宮原和明会長（長崎総科大教授）から問題提起があり、中村保高部長と早瀬隆司教授（長崎大学環境科学部）の基調講演がありました。



中村部長の講話：地球温暖化対策について

県では、「みんなで止めよう温暖化」のキャッチフレーズで、チーム・マイナス6%を発足させた。

1) a) 長崎市の気温の経年変化を見ると、年平均気温の平均値は16.9℃であるが、1950年以降、50年間で日最高気温は0.8℃、平均気温は0.9℃、日最低気温で1.2℃、それぞれ上昇している。b) 九州での50年間、ソメイヨシノの開花日は4.5日早くなり、カエデ紅葉日は25日遅れている。c) 長崎市での年平均降水量は1960mmだが、この50年間で300mm減少している。また、d) 県全体のCO2排出削減は平成

21年度までに基準年度（平成2年度）の排出量の6%削減には74万トンが必要である。

2) 「長崎県未来につながる環境を守り育てる条例」に基づいて、県・県民および事業者が自主的・積極的に取り組むよう定められていることから、県ではa) 日常生活および事業活動で対策を考え、b) 自ら排出抑制等を率先し、c) 啓発活動や教育・学習に努めることとしている。このため、

- ①日常生活での取り組みや県の対策への協力
  - ②自動車等の使用抑制
  - ③排出抑制自動車の購入
  - ④アイドリング・ストップ
  - ⑤太陽光など再生可能エネルギーの優先利用
  - ⑥建築物に係る排出ガスの抑制
- など行為を広めたい。

3) さらに特定事業者には削減計画書や報告書の提出を求め、大規模駐車場設置者にはアイドリング・ストップの周知徹底を義務付け、なされない場合には勧告および公表を行うこととしている。

4) 県自身、「地球温暖化対策協議会」を運営し、「地球温暖化防止活動推進センター」と連携して100名の推進員による普及啓発をなし、「もったいない運動」の展開を図っており、「みんなで止めよう温暖化」事業を推進し、「ノーマイカーデー運動」を年2回実施している（県庁では毎月第2水曜日）。

5) 今年度は、今後10年間の排出目標を設定し、再生可能エネルギーの利用促進、事業者・住民の活動促進、公共交通機関の利用増進、市町・NPO法人など関係団体との協働を進め、さらに“長崎県版グリーンニューディール”、“白熱電球一掃キャンペーン（200円/1世帯・1個）”、“太陽光発電設備補助（6万円/1件）”を実施することになっている。（以上）

早瀬教授の講話：Change, Yes we can! 持続可能な社会に向けて

- 1) 物質的豊かさと個人的自由を得て、幸福になるはずが不安に満ちた社会となってしまった。どうやったら明るい未来への希望をとり戻せるのだろうか？（映画「降りてゆく生き方」のキャッチコピーから）
- 2) 世界と日本の人口の推移と予測は、右肩上がりとは右肩下がりでは対照的である。
- 3) 社会の価値観や世界観において Change しなければならない（社会の価値観：進歩→公平・分配・持続，社会システムの認識：全体と部分→社会と環境，自由への考え方：所有の自由→生きることの自由）
- 4) 政治行政における Change
  - a 中央集権システムの疲弊
  - b 地方分権への期待
  - c 長期的視点からの政策のニーズ拡大
  - d 「国連開発発展の10年」から「国連持続可能な開発のための10年」へ
  - e マス（大衆）から市民へ！ 主役は市民とコミュニティ
- 5) 環境問題への対応における Change
  - a いかにして環境基準を満たすか」から「いかにして環境への負荷を削減するか」
  - b 「環境問題」についての認識が“大量，集中，短期，直接”から“少量多種，広域，長期，複合蓄積”へ  
このため「科学的不確実性と多様で複雑な利害関係をもつ問題に対して，トレードオフ（競合）を考慮に入れながら解決していかなければならない
- 6) 何を Change していかなければならないのか？
  - a 個人化した「大量」から自立した理性的「市民」へ
  - b リスクの受容と拒否を選択できる地域コミュニティの形成へ
  - c 行政と市民との新たな関係の創出へ
  - d 地域の特性を活かした資源の利活用（地域エネルギー，地産地消，地域水道）
  - e 企業や国家に占有された技術から市民の技術へ（以上）

## 緑のカーテン事業：ボランティア活動

事務局

当会では、去る7月31日、長崎市の「緑のカーテン事業」に協賛し、鈴木監事、川里委員の2名が設営に協力、参加しました。鈴木さんの口添えで、平田社長はじめヒラタ（株）のメンバー4人と緑清園の西田さんに、全面的にバックアップして頂きました。午前9時に始めて、本館（主にアサガオ）と別館（ヘチマ）の2ヶ所、午後3時頃に終わることが出来ました。プランターより、やはり直植えの方が成長はいいようです。

また、撤去は10月31日、市役所の方々と協働で、午前中に終わりました。大きいヘチマが沢山（大袋2袋半ほど）取れました。皆さんお疲れ様でした。

平田さん、西田さんには会長から感謝状をとの声があがってます。当会あてに、11月11日に、田上長崎市長から感謝状が贈られました。

## セイタカアワダチソウ除去に 県費補助交付！

事務局

県では、新しく平成21年度から「緑と生きものの賑わい事業」補助金制度を創設し、6月初旬、事業者の公募があった。

当会では、かねてから「セイタカアワダチソウ撲滅」のアピールをしており、緊急的に運営委員間で協議して会長の承認を得、県自然環境課あて応募した。継続監視と除去作業との組み合わせ及び県立公園内でのパイロット事業の強調が、外部審査委員の賛意を得たものと思われる。

10月14日付で交付決定を受け、直ちに当会の直営事業として作業準備に入った。大村市中岳町南川内地内の現地を確認し（3.8ha）、地元調整・作業員確保・日程調整等を菅委員、県との連絡調整・予算調整・物品調達等を川里委員（事務局長）で分担した。大村消防署の届出も済ませ、15日から作業に入った。作業は、調査班と伐根班に分かれて行ったが、クズ・ススキなどが入り乱れて繁茂して、困難を極めたところもあった。しかし、南川内自治会の人達の奮闘により、事故もなく8日間の日程を、無事終えた。作業期間中に県担当者の実地検分もあり、完了検査は宮原会長が多忙のため久保田委員（事務局次長：技術士）をお願いした。

セイタカアワダチソウは、分布が拡大してリストでは要注意植物に格下げとなり、外来種除去事業は、淡水域のオオクチバスやブルーギルに代表されるようになった。今後、継続事業として採択されれば、以前、自然公園財団（雲仙支部）が行った外来種除去事業の、長崎県版として一応の成果が出せ、国定公園・県立公園の風景保全にも大きく寄与するものと期待される。（川里弘孝）

## 懐かしの「矢切の渡し」

事務局 川里弘孝

10月末、母校の100周年記念式典に参加した折、21名参加の合同クラス会は、川向こうの柴又「川千家(かわちや)」であった。古い家造りと美人の女将が取り柄だったが、料理は今いちだった。おかげで随分お酒が入ってしまった。

翌日、学友五、六人で渡った、「矢切の渡し」は、好天に恵まれて風と水も和み、気持ち良かった。永年、続いた先代の船頭は一週間前、亡くなったとか。渡しは江戸幕府から「農民」だけに許された特権だったらしい。細川たかしの歌碑！はいただけないが、河川敷のゴルファー、堤防上のジョキングマン、連続する野菜畑そばの、旧徳川邸がある戸定が丘・・・まさしく50年前の、松戸の風景が残っていた。

上陸して、寅さんの「帝釈天」で合掌する。「高木屋」の「みたらしだんご」とビールでの乾杯も忘れがたい。帰りに立ち寄った、旧「上野恩賜公園」は相変わらずの人出で、街頭ミュージシャン、ウォーキングマン、博物館・美術館見学の小、中学生、散策・休憩する人、家族連れ、外国人で賑やかだ。日比谷公園と並んで、わが国初の公園は今なお健在で、多様な世界だ。旧東京音楽学校校舎や近くの静寂な「谷中墓地」も捨て難い。ここにも徳川家の大きな墓がある。久しぶりの短い旅は終わった。

## 「雲仙再生プロジェクト」ボランティアに参加

事務局 川里弘孝

去る10月25日(日)、雲仙・白雲の池において環境書九州地方環境事務所主催の「雲仙再生プロジェクト」～100年に向かって：外来生物除去活動が行われたので、朝早くから車を飛ばして参加してきた。雲仙街道沿線は皇太子の来訪のためか美観を呈していた。普段からこうあって欲しいものだ。

9:00から始まった作業には、一般募集のボランティア、地元の皆さん、老若男女150名が集まった(当局発表)。旧知の方々ともずいぶん出会った。500円の参加料(弁当代)を払って、作業に入る頃には小雨が降り出した。前日に排水されていて、湖底はびっしりオオカナダモに被われていた。作業は、3班(生物・ゴミ・運搬)編成の1～2時間毎のインターバルで行われたが、交替はほとんど参加者個人に任された感だった。泥沼にはまり込んで魚類を獲るグループ、それらを運ぶグループで重量・体長を測定・記録する人、湖岸敷のゴミを拾う人、それぞれが出来ることをやっていて、まさしくボランティア活動の様子だった。在来の小魚はほとんどオ

オクチバスやブルーギルに喰われ、コイの捕獲が目だった。それらは小学校のプールに収容された。

筆者もドロにまみれたオオカナダモと格闘した。一輪車の扱いもかなりうまくなった。中にはただ立っているオバサンもいたが、監視も大事と割り切った。子供たちも遊び半分ながら汗を流していた。家族連れが多かったような気がする、レクレーションを兼ねたボランティアも多少あったがそれはそれでいい、大方(とくに若い人)はまじめに労働していた。これも時代の反映かと大げさに考えた。チーフプロデューサー兼ディレクターの加藤レンジャーの、機敏でこまめに動く姿が印象的だった。

昼食では雲仙パワーの源：婦人会炊き出しの豚汁をご馳走になった。懐かしい顔ぶれが揃っていて、話し込んだりもした。午後からは雨足もひどくなったので雨具をつけた。人影はまばらとなり、疲れも感じたので終了1時間前にお暇した。その時点で、まだ池さらいは三分の一程度だった。投げ込まれた空き缶の量も軽トラ一杯はあったろう。

帰りは湯ぶねが新装なった100円風呂で汗を流し、顔見知りの番台のオバサンに頂いたヤクルトが美味しかった。本格的雨で暗くなったので、早々に雲仙を辞去した。在任中に果たせなかった池干しが、このような形で、生態系保全につながることを嬉しく思った。

## 自然共生の科学技術： 最近の学会講演・論文から

秋も深まって、学会活動も盛んとなり、学会誌も充実した内容になっている。例によって独断と偏見でごく僅かであるが、紹介させていただく。(川里弘孝)。

- ボランティア団体による木質バイオマス活用をめざしたマツ林型里山保全活動を援助するための技術的検討と合意形成過程(山場淳史ほか) 景観生態学 14(1): 73-81, 2009.
- 特集：種の保存とランドスケープ～21世紀における自然と人との共生のあり方を考える～(大塚生実：種の保存と森林管理～ツシマヤマネコ保護の取り組みほか) ランドスケープ研究 72(4): 355-402.
- 特集：観光立国とランドスケープ～(股張一男：長崎さるく博の事例ーまち歩き観光と「人おこし」ほか) ランドスケープ研究 73(2): 80-123
- 市民・行政・研究者の協働による絶滅危惧種カワラノギク保全活動の取り組み～多摩川における保全の実践とその評価。保全生態学 14(1): 101-108, 2009.
- 地方版レッドデータブック作成における絶滅危惧植物の選定方法と必要な情報～牛久市レッドデータブックの試み(岡田久子・倉本宣)。保全生態学 14(1): 131-135, 2009.

- 法面保護工で施工された植栽林下層植生の種組成と構造～シダ植物の定着とその要因に着目して(黒田有寿茂ほか)．保全生態学 14(1)：55-65，2009．
- 長崎市野島の植物(中西弘樹・吉岡一也)．長崎県生物学会誌 65：18-21．

## ブックガイド

- “脱官僚”(最近、テレビでの政治問題への傾斜放映が多い。しかし、その実体にはなかなか奥深いものがあり、やはり本には及ばない。本書は、現役の政治家が吐露した声を正直に伝えていることで、読み応えがある。お薦めしたい。江田憲司・渡辺喜代美 講談社)
- “自己組織化とは何か”(一読したものの良く理解できなかった。なんとなく自己を見つめることが現代社会に必要な匂いがした。ブルーバックス 講談社)
- “学問”(山田詠美 新潮社)・“純情エレジー”(豊島ミホ 新潮社)(いずれも青春時代の男女間の激しい交流を描いたものだが、作者の人間観の違いが読み取れる。背景の自然描写が異なるのも面白い。)
- 棄民たちの戦場～米軍日系人の悲劇(第二次大戦ヨーロッパ戦線での404部隊の実話は有名だが、その裏に何があったのか。現代のイチローにも通じる、日本人精神(魂)を考えさせる、好書である。)
- “山を楽しむ”(初代国立民族博物館長だった、登山・探検・野外科学の第一人者の自叙伝風随筆。分厚いので興味がない人は疲れるかも知れない。)

## 事務局だより

- フォーラム・ネットワークでもお知らせしたとおり、7月からHPを開設しています。内容はやや面白みに欠けますが、会員諸氏のお知恵を拝借して、良いものに進化させたいと思っています。ご意見、アドバイスを事務局までお寄せください(担当：牧)。改めてエコシステム

(株)さんに感謝するとともに、会員の更なる活用を期待します。<http://nature-man.sakura.org>

- セイタカアワダチソウ除去事業が、無事、終了しました。大村市南川内自治会の皆さん、ありがとうございました。会員の菅さん、久保田さん、中島さん、お疲れ様でした。また、来年も予算が配分されるよう、現場の事後監視を続けます。

### 【編集部から】

原稿を募集します。論説・随想・紀行文・技術報告・写真等、体裁は問いません。最低1,000～1,200字程度でお願いします。二段組みはこちらでやります。E-mailでの投稿、大歓迎です。(M)

(nagasaki\_coexistence@hotmail.com)

### 事務局 会長 宮原和明

〒851-0123 長崎県長崎市網場町536  
長崎総合科学大学建築学科宮原研究室(担当：牧)  
TEL：095-838-4114 / 095-838-2481  
FAX：095-830-1281 牧：090-7161-5408  
E-mail：Nagasaki\_coexistence@hotmail.com

### アネックス1 事務局長 川里弘孝

〒856-0824 大村市水田町1098  
(長崎大学大学院生産科学研究科)  
TEL：0957-50-1355 FAX：0957-50-1355

### アネックス2 副事務局長 為永一夫(県央地区担当)

〒856-0820 大村市協和町790(株)タメナガ造園  
TEL：0957-54-0271 FAX：0957-54-1127

### アネックス3 副事務局長 松田英明(県南地区担当)

〒851-2212 長崎市畝刈町1613-251(株)松田久花園  
TEL：095-850-0714 FAX：095-850-0715

### アネックス4 副会長 山本規仁

〒857-0103 佐世保市原分町1052-3 山本造園土木(株)  
TEL：0956-49-3939 FAX：0956-49-4747

### アネックス5 副事務局長 田維豪裕(県北地区担当)

〒857-1161 佐世保市大塔町574-5(株)庭建  
TEL：0956-31-2011 FAX：0956-31-2310

## 長崎自然共生フォーラム

～地域の保全は身近な自然との共生から～

みんなで、地域から地球環境を考えよう！

会費 2000円/年：情報交換，研究会，ニュースレターなど

申込 E-mail:nagasaki\_coexistence@hotmail.com